

Environmental Management System

令和6年度佐賀市環境 マネジメントシステム 実績報告書

(令和5年4月～令和6年3月)

環境政策課

2024.8

環 境 方 針

(基本方針)

1. 地球温暖化を防止するまち さが

市役所自身が環境負荷の低減に取り組むとともに、市民、事業者等に対して、省エネルギー行動の実践、再生可能エネルギーや新たな資源の活用など、環境負荷を減らすことができる取り組みの普及を積極的に推進することで、地球温暖化防止への貢献を目指します。

2. 資源を活かす循環のまち さが

廃棄物の排出抑制、再使用、再生利用の推進など、佐賀市全体でごみ問題の解決を図り、循環型社会の構築を目指します。

3. 水とみどりがあふれるまち さが

地域の自然・生物多様性を保全し、快適な親水空間・みどり空間の創出等を推進することにより、自然環境と人々の営みや歴史・文化とが調和した都市づくりを目指します。

4. 安全で快適な生活環境のまち さが

市民、事業者等に対する生活環境への配慮意識の啓発、水道水の安定供給や生活排水の適正処理等を実施することにより、安全で快適な生活環境の向上を目指します。

(佐賀市の望ましい環境像)

『守り、育み、未来をつくるトンボ飛び交うまち さが』

平成27年12月10日

佐賀市長

秀島敏行

1. はじめに

佐賀市は、山から海までつながる水とみどりにあふれる豊かな自然環境が広がっています。豊かな自然は多様な生態系を形成し、様々な自然の恵みをもたらすことで、私たちの生活を支えています。

しかしながら、今日の社会では、物の豊かさや利便性を追求し、大量生産・大量消費・大量廃棄を繰り返してきたことで、地球温暖化問題をはじめ、大気や水の環境汚染、自然破壊による生物種の絶滅、ごみ問題といった、私たちの生活を脅かす深刻な問題が起きています。

そこで、佐賀市は、すばらしい自然や歴史・文化が残る環境を、守り、育み、未来の子どもたちへ引き継いでいくために、自らの環境負荷を減らすことはもとより、市民、事業者等に環境保全に関する様々な普及・啓発活動を行い、実践を促します。環境施策をより計画的、効果的かつ確実に展開していくために、環境マネジメントシステムを構築し、進捗管理を行っており、平成14年3月1日には、旧佐賀市（現在の本庁）で環境に関する国際規格であるISO14001を認証取得し取り組みを進めてきました。平成22年度からは、佐賀市独自の環境マネジメントシステムである「佐賀市環境マネジメントシステム」の運用を開始し、今後一層、環境への取り組みを進めていきます。

今回の報告書は、令和5年度の取り組み状況を取りまとめ、市民の皆様に報告するものです。

■これまでの経緯

平成13年4月	市長によるキックオフ宣言
平成13年10月	システムの運用開始
平成14年3月	佐賀市（旧佐賀市）がISO14001の認証を取得
平成15年3月	水道局、交通局、本庄幼稚園までシステム対象範囲を拡大
平成17年10月	市町村合併 新市の環境方針を策定
平成18年10月	諸富・大和・富士・三瀬支所がシステムを運用開始
平成20年10月	川副・東与賀・久保田支所がシステムを運用開始
平成21年4月	衛生センターがシステムを運用開始
平成22年2月	佐賀市が環境都市を宣言
平成22年4月	佐賀市環境マネジメントシステムによる運用開始
平成27年12月	第2次佐賀市環境基本計画の策定に伴う環境方針の見直し
平成28年7月	第2次佐賀市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）を策定

■システム対象範囲

佐賀市環境マネジメントシステムは、佐賀市役所におけるすべての事務・事業及び活動を対象としています。

令和5年度の環境マネジメントシステムの主な適用範囲は以下のとおりです。

部門	エネルギー管理施設等（主なもの）
総務部	本庁舎 大財別館 アイスクエアビル 消防格納庫
政策推進部	さが藻類産業研究開発センター
経済部	エスプラッツ白山 歴史民俗館 佐賀バルーンミュージアム やまびこの湯
農林水産部	四季のめぐみ館 排水機場
都市戦略部	公園・遊園 徐福長寿館
建設部	施設管理センター 佐賀駅前広場 放置自転車等保管所
環境部	佐賀市清掃工場 最終処分場 清掃工場南部中継所 衛生センター
市民生活部	斎場 交通公園 隣保館 同和教育集会所 田代ふれあいセンター
保健福祉部	ほほえみ館 保健センター 老人福祉センター 三瀬診療所
子育て支援部	児童クラブ 児童センター 幼稚園・保育所
地域振興部	公民館 コミュニティセンター 健康運動センター スポーツ施設
国スポ・全障スポ推進部	まるなかビル
教育部	小中学校 給食センター 文化財資料館 青少年センター 図書館
各種委員会	（管理施設なし）
諸富支所	産業振興会館（諸富支所）
大和支所	大和支所庁舎 そよかぜ館 川上排水機場
富士支所	富士支所庁舎 泉源
三瀬支所	三瀬支所庁舎 体験農園施設
川副支所	川副支所庁舎 排水機場
東与賀支所	東与賀支所庁舎 シチメンソウの里休憩所 排水機場
久保田支所	久保田支所庁舎 排水機場 久保田駅トイレ
交通局	交通局庁舎 整備工場
上下水道局	上下水道局庁舎 浄水場 下水浄化センター 農業集落排水処理施設ポンプ場
富士大和温泉病院	富士大和温泉病院

この他にも、佐賀市独自の学校版環境ISOを策定し、市内の小中学校で活発な取り組みが行われています。

2. 取り組み結果

(1) 第2次環境基本計画に掲げる施策の取り組みについて

平成27年10月に策定した第2次佐賀市環境基本計画に基づく環境施策を計画的に実施するため、佐賀市環境マネジメントシステムのなかで進捗管理を行っています。

令和5年度の環境基本計画に掲げる施策目標、基本目標横断プロジェクトの取り組みについて報告します。

(10 ページ以降に掲載)

(2) 全庁共通の取り組みについて

市役所業務の環境負荷の低減のために、「コピー用紙の購入量削減」、「職場排出物の抑制」、「施設エネルギー使用量の削減」、「自動車燃料使用量の削減」、「グリーン購入の推進」に全庁で取り組んでいます。

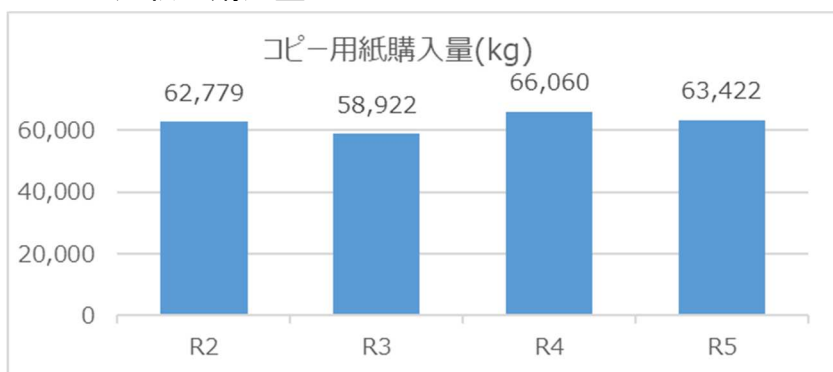
① コピー用紙の購入量削減

両面印刷や裏紙使用、ペーパーレスの推進に取り組み、前年度比約4%減となりました。一部、マイナンバーカード交付事務や新型コロナウイルス関係業務で購入量が増えた部門もありました。

▽ (表1) コピー用紙の購入量

年度	A3	A4	B4	B5	合計(kg)
R5	4,961	58,039	384	39	63,422
R4	4,767	60,265	902	126	66,060
R3	6,281	51,516	1,030	95	58,922
R2	4,814	56,718	1,145	101	62,779

▽ (図1) コピー用紙の購入量



② 職場排出物の抑制

新型コロナウイルス対策業務や支所移転などの影響により職場排出物が増加の傾向にありましたが、令和5年度の廃棄物は前年度比約11%減となりました。

▽ (表2) 廃棄物

年度	一般廃棄物			産業廃棄物		合計(kg)
	燃えるごみ	シュレッダー古紙	燃えないごみ	有害ごみ	プラスチック系ごみ	
R5	40,291	7,701	1,779	51,118	4,381	105,271
R4	41,181	8,244	4,137	54,850	5,243	113,655
R3	44,933	7,271	1,627	43,899	4,383	102,113
R2	39,345	8,356	1,276	33,794	3,248	86,019

▽ (表3) 資源物

年度	ビン・缶	布類	新聞・チラシ	ダンボール	コピー用紙	雑誌・色紙	機密文書	合計(kg)
R5	668	197	7,310	7,958	12,493	23,215	26,566	78,408
R4	620	49	7,984	7,504	12,445	30,505	35,589	94,695
R3	746	62	7,959	6,998	12,864	25,986	32,747	87,362
R2	620	107	8,642	7,449	11,087	26,276	32,149	86,330

③ 施設エネルギー使用量の削減

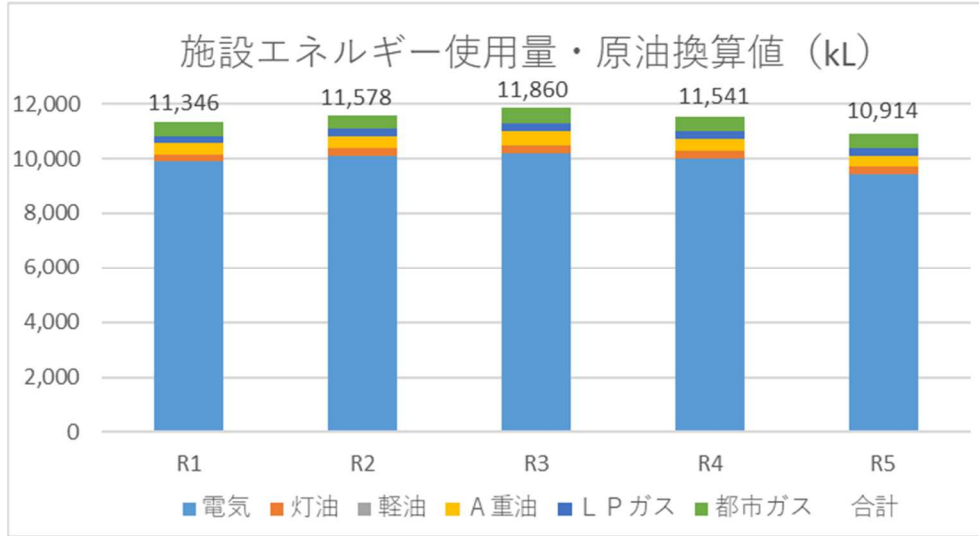
電気使用量は施設利用の増加や夏季の空調利用が増加したため、前年度比3%増加しました。

▽ (表4) 施設エネルギー使用量

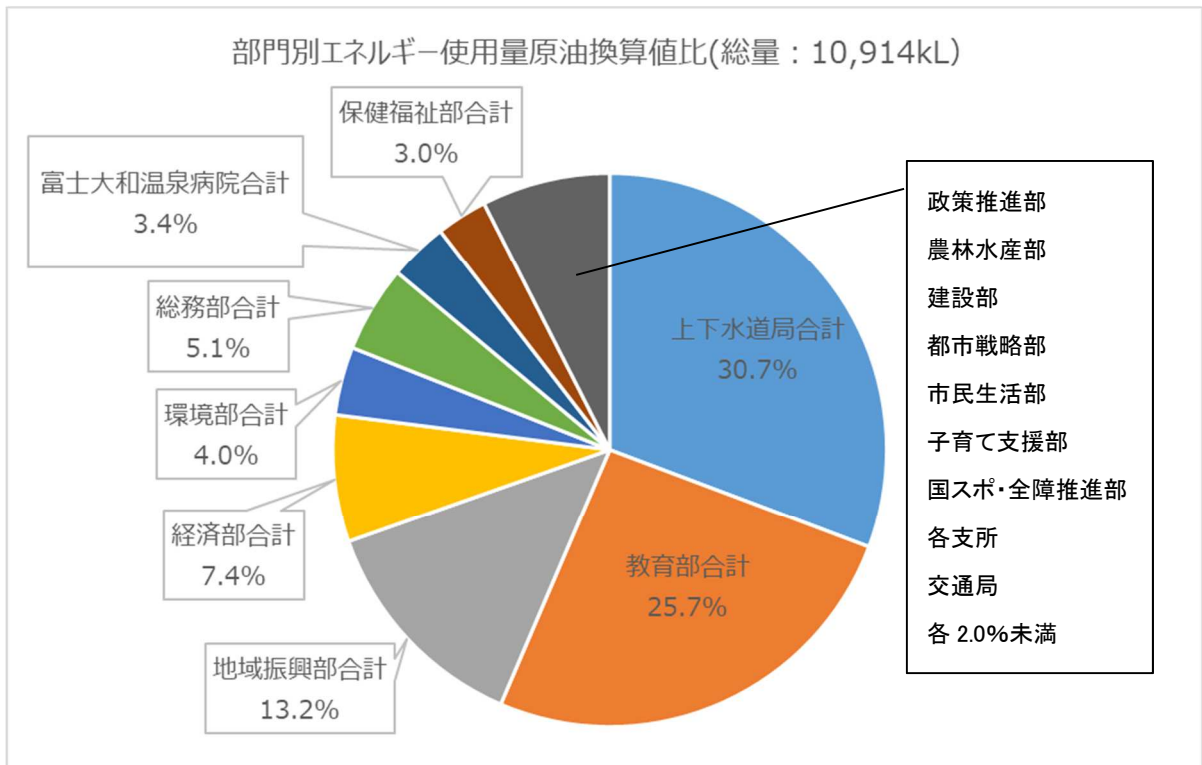
	電気 (kWh)		A重油 (L)	灯油 (L)	軽油 (L)	LPG (t)	都市ガス (m³)
	使用電力量	うち自家発電量					
R5	56,093,266	19,489,857	395,676	321,306	2,481	221.0	440,102
R4	54,247,149	15,434,633	400,964	330,245	3,887	213.7	479,174
R3	55,055,365	15,458,005	520,199	304,812	2,773	220.2	491,122
R2	57,500,356	18,277,115	440,971	294,226	3,708	204.9	424,959

それぞれのエネルギーの使用量を原油に換算にすると令和5年度は全体で前年度比約5%減となりました。

▽ (図2) 施設エネルギー使用量原油換算値



▽ (図3) 部門別施設エネルギー使用量原油換算値の割合



④ 自動車燃料使用量の削減

ガソリン、軽油の使用量は、日頃からエコドライブを心掛け近距離移動の際は、自転車や公共交通機関の利用等に取り組み、前年度より減少しています。

また、使用済み天ぷら油から精製する高品質バイオディーゼル燃料（HiBD）については、軽油と同等質の燃料であり、軽油に混合したものを市営バスやごみ収集車の燃料として使用しています。

▽（表5）燃料別使用量・走行距離・燃費

		R2	R3	R4	R5
ガソリン	使用量 (ℓ)	160,619	151,901	154,399	143,416
	走行距離 (km)	1,981,477	1,914,403	1,919,937	1,831,242
	燃費 (km/ℓ)	12.3	12.6	12.4	12.8
軽油	使用量 (ℓ)	818,919	874,526	898,207	878,400
	走行距離 (km)	3,077,614	3,250,860	3,231,528	3,195,631
	燃費 (km/ℓ)	3.8	3.7	3.6	3.6
HiBD(R2～) BDF(～R1)	使用量 (ℓ)	3,275	6,797	24,676	40,441
	走行距離 (km)	21,328	—	—	—
	燃費 (km/ℓ)	6.5	—	—	—

⑤ グリーン購入の推進

一部調達において、価格・安全性等の観点から選択できないといった理由でグリーン購入100%を達成することができませんでした。その他の区分の調達量が増加していることからリユース等を積極的に行い、引き続き目標達成率100%に向けて周知を徹底していきます。

▽（表6）区分別グリーン購入達成率

区分		R2	R3	R4	R5
紙類、 事務用品類	グリーン購入 達成率 (%)	—	—	99.5%	98.4%
	年間調達総量	—	—	16,443,784	16,153,895
	内グリーン購入 適合品目調達数	—	—	16,366,210	15,887,780
その他の区分 (事務機器等、オフィス 家具等、被服等、その他 繊維製品、自動車、設 備、消火器、災害・備蓄 用品)	グリーン購入 達成率 (%)	—	—	89.5%	89.4%
	年間調達総量	—	—	54,954	125,886
	内グリーン購入 適合品目調達数	—	—	49,173	112,487
計	グリーン購入 達成率 (%)	98.9%	99.5%	99.5%	98.3%
	年間調達総量	18,477,825	16,995,012	16,498,738	16,279,781
	内グリーン購入 適合品目調達数	18,272,388	16,906,221	16,415,383	16,000,267

※R4年度から区分が一部変更になったため、R1～R3年度分は総計のみ表示

(3) その他の取り組みについて

○エコアクションデーの実施

佐賀市では、毎月第 2、4 水曜日を「エコアクションデー」とし、職員が環境配慮行動を推進する日としています。特に、自動車の使用を自粛するエコ通勤を推進しており、当日の通勤にはなるべく徒歩や自転車、公共交通機関を利用するように呼び掛けています。

○PLANET ACTION！（プラネットアクション）

世界的に大きな問題となっているプラスチックごみによる海洋汚染について、佐賀市では、市役所から始める海洋プラスチックごみ対策として「PLANET ACTION！」に取り組んでいます。

<取り組み内容>

- ・使い捨てプラスチック（ストロー、コップ、レジ袋）を使用しない。
- ・会議やイベントでペットボトルを使用しない。
- ・海岸・河川清掃等へ積極的に参加する。

○クールビズ（5月1日～10月31日）、ウォームビズ（12月1日～3月31日）

○毎週水曜日の朝、職員による本庁舎周辺の清掃活動

3. 終わりに

平成 14 年 3 月に ISO14001 の認証を取得して以降、本庁舎の省エネ改修や水道局庁舎の ESCO 事業など施設面での省エネの取り組みを推進するとともに、職員の環境配慮意識も定着しつつあり、一定の成果を得てきました。

このシステムでは、「佐賀市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」に則り、市役所自身の事務・事業の実施による温室効果ガス排出量の把握と削減に取り組んでいくほか、「第 2 次佐賀市環境基本計画」の推進のため、市全体の環境施策の推進や環境都市宣言に沿ったまちづくりを進めていくことを重視しています。

地球温暖化を始めとする近年の様々な環境問題への対策として、環境マネジメントシステムの役割はますます重要なものとなっています。

今後も、佐賀市環境マネジメントシステムを適切に運用して環境負荷を低減し、全庁的な環境配慮行動の推進に努めます。